OPGE通信

東京学芸大学男女共同参画推進本部ニュースレター

OPGE
Office of Promoting Gender Equality at Tokyo Gakugei Univ.

Vol.2 2007年3月22日

鷲山学長へインタビュー

OPGE通信Vol.2は、鷲山学長に「学芸大学における男女共同参画について」お聞きしました。

本学の男女共同参画について

本部(以下、本):お忙しい中、本日はありがとうございます。本学における男女共同参画について伺います。

学長(以下、学):本学の女性教員の比率は17%で、全国国立大学の比率である11%よりも高いですね。私が本学に赴任したのはもう30年近く前になりますが、前任の大学に比べて女性教員が多いなあと感じて、進んでいると思った記憶があります。

本:しかし、女性の教授はまだ少なく、学系長など女性の例は多くないようですが。

学:本学には国立大学で初めての女性学生部長がおられましたし、附属学校の校長にもおられました。女性教員の総数は上昇しつつあり、これからどんどん活躍されると思います。
全国平均よりいいからというのでなく、まず3割を目指すことでしょう。支持率3割で政権がとれる時代ですから、3割になればもう多数派かもしれません。
事務系では女性の課長も出ています。天の半分は女性が担っているのですから、大学の活動を女性の視点から見なおし、労働条件や働き方の工夫をして、理にかなったスタイルをつくっていきたいですね。

本:私たちは次世代支援として保育所の設置を検討しています。

学:フランスは出生率が上がったと話題になっています。10年前が1.65%だったのが、2.1%になって、人口の維持に必要な出生率は2.08%なのだそうですが、それを上回りました。対して日本は1.26%で、ドイツよりも低いですね。
制度と組織をしっかりさせるたことが決め手でしょう。フランスでは9時～5時の週35時間労働ですし、保育所も整っていて、朝あずけて夕方引き取るスタイルが定着しているといいます。ですから本学に保育所が設置されることは大変重要です。
財政支援もフランスではしっかりしています。産休の間の賃金保証や育児手当や児童手当がそうで、児童手当などは第3子や第4子では日本の4～5倍は出るようですよ。保育士などを雇うお金も補助されるといいます。それに教育費が低く、大学の授業料は日本の1/10位ではないでしょうか。

本:子どもを持つ教職員が働きやすい環境にあることや、将来の教育費なども重要ですね。

学:仕事が厳しいという客観的条件があるわけで、それを総合的なしつらえの中で緩和し、工夫を重ねることがまず必要です。またお互いの事情を配慮しあって、支え合う気風を大学の中に定着させることももちろん大事です。
教育は未来に向かう仕事です。しかし日本では今、信頼できる未来があるのかどうなのか、

ということも問われています。それが実感できる世界を運動したり構想したりして、創っていかないと。

本学の学生に期待すること

本:本学の学生に対して、男女共同参画社会の実現に関して期待されていることは?

学:男女共同参画に限らず、相手を大事に思うことが出発点でしょう。しかしそれは、相手に介入しないということではなくて、学生時代は特にそうですか、率直にものを言い合って、大いに介入し合うことが大切です。

ジェンダー関係の授業を通じて、いろんなことを歴史的形成、社会的形成の視点から見ることを学ぶと同時に、しかしそれは最低条件であって、そこで示唆を受けたことについて自分は実際の場においてはどうなのか、その辺りのことを率直に言い合うことが重要です。

自分の生育歴を客観化し、総括してみるとか。男女が共に生きていく在り方というのを、日常生活における立ち居振る舞いにまで定着していかないと。

サークル活動やゼミでの議論など、友人や教員との関わりあいの中でも、日々学びあって欲しいと思います。最近の若い人は人間関係が希薄といわれますが、学生生活の中で濃い関係を沢山体験して欲しいですね。人との付き合い方や姿勢は、具体的な行動の中で、経験を通じて学んでいくものです。いろいろ異質のふれ合いの場を持つことも大切です。新しいコミュニケーションにいつも積極的であってください。

ご自身の生活の中で思うこと

本:次に、ご自身の生活の中での男女共同参画について伺いたいと思います。例えば、家事などはどうされていますか。

学:特に分担が決まっているわけではなく、基本的にはその時に手が空いている方がやっています。朝、早く起きた方が朝食をつくるとか。

本:洗い物、ゴミ出しなどはどうされています?

学:そういうことも手の空いている方がやっています。なかなか手があかないこともありますが、自分のことは自分でやる，たまたま助けてくれる人がいると有り難いということでしょうか。それでも家事などで男女共同参画が出来ても、内面的にはうまくいかないことも多々あると思います。それを受け止めるのは、トレランス・寛容さでしょうか。

本:寛容さですか?

学:今の社会は、個別化の論理が幅をきかせます。個の主張が強く出るのは、どの人間関係でもそうでしょう。ですから求められているのは、それを受け止める寛容さ、そして共感能力、相手の立場に立つということでしょうか。しかし、お互いに寛容さに乗じてはいけない。自己陶冶の契機にしないと。

本:競争社会の中では、男性も女性もエゴがかきたてられたり、孤独に陥ったりしますが、男女共同参画はそこでの質的転換が求められます。

学:競争原理と上昇志向の葛藤の中で、主婦が夫を切り刻む不幸な事件も先日起きました。今の社会の流通観念をそのまま受け入れて生きていくと、道を間違えてしまいます。それを相対化して見る眼差しが必要ですね。

それが出来るのが教育の場であり、大学のような率直に議論の 出来る場でしょう。事柄の因果関係を明らかにし、人との密な関わりの場で、自分をうまく表現する経験を積むことが大事なのです。そうした自他との相互検討の中で、自分も変わり、人も変る。変わることの喜びの中から、新しい価値観を生み出していくということだと思います。
人との交わりの中で、男性・女性というよりも、まず人としてお互いに真摯に向き合い、相手の言葉を大事に受け止めて、そしてよく熟慮して返事を返す、これが大切でしょう。この積み重ねが、新しい男と女の文化をつくり、共同参画を深く豊かにしていくのではないでしょうか。

～インタビューを終えて～

人と交わることが大事、という学長のことばに、人として互いに配慮しあう基本的な姿勢の一面に男女共同参画があるのだと、改めて思いました。子どもができれば、密な関わりを避けられないところが、実は少子化の根にあるのでしょうか？(U)
お話を聞きながら、生活経験の大切さ、寛容さなど現代日本に必要なものを説く先生の話に引き込まれました。そして、人との関わりの中で自分を表現していくことということは、男女共同参画の実現にもつながっていくのではないかと感じました。 (S)

コラム

足跡

（副本部長　大竹美登利）

「産休が6週間から8週間になったのは、私たちが一生懸命、組合で運動した成果なのよ。しっかり受け継いで」と、生きていれば98歳になる上司の教員に言われた言葉が今も印象に残っています。その後上司になった教員からは、「自分の子どもを預けようとしたら保育所がなかったので作った。なければ作ればよいのよ。」と励まされました。したがって、結婚して子供を生むということは、こうした足跡を残すことなのだと覚悟して、結婚し、子どもを産みました。電車に乗って連れて行く保育所でしたが、とりあえず預ける保育所は確保したので、作り運動はしませんでしたが、父母会の会長として、保育時間を夕方6時から7時に延長し、隣に建つ公団住宅で園庭が日影にならないように、２階ほど低くする設計変更させたり、学童保育がなかったので学童保育所を作ったりして、とりあえず、先輩から受け継いだものを次の世代に渡せる足跡を残せたかなと思っています。

特に学童保育所作りは、一番印象に残っている活動です。上司の先生からいただいた保育所作りの記録集で、始めに３人集まればできるということを知り、その精神で、まず、ポスターで「学童保育所を一緒に作りましょう」と呼びかけました。第１回の会合で集まった人たちと「作る会」を立ち上げ、地域の共働きの割合や子どもたちの数を調査したり、保育所を作る場所を探し回り地主さんに交渉に行ったり、お金をかき集め、プレハブを建て、必要な物は粗大ゴミ置き場から拾ってきてそろえ、就業規則を作り、労基署に事業所届けを出し、市役所に認可届けを出して、正式にスタートできたときは感激ひとしおでした。その学童保育所は、今では建物も立派になり、少子化にもかかわらず子どもの数も増え、市内でも評判の学童保育所に発展しています。

お知らせ

＊ アンケートへのご協力ありがとうございました。

本学の次世代育成に関するアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。ただいま分析中です。結果は，次号でご報告いたします。

＊ 親と子の映画鑑賞が実施されました。

次世代育成支援策の一つとして、春休み向け映画チケット購入の補助がありました。この購入の補助については、親子に限らず夫婦や兄弟同士でも利用できます。次回は、7月頃の予定です。

＊ 就業規則が改正されました。

妊産婦に対する時間外労働、休日労働と深夜業の制限が明記されました。また，子どもが生まれるときの父親の休暇も、これまでの2日に加えて、さらに5日とることができるようになりました。

＊ 次世代育成支援のための行動計画を改定しました。

この行動計画は、300人を超える労働者を雇用する一般事業主が都道府県労働局に提出することが義務づけられています。本学も平成17年8月に提出しましたが、新たな次世代育成支援策を盛り込んで、改定しました。内容は、本部のホームページでご覧いただけます。

＊ OPGE助成事業を始めます。

平成19年度から、男女共同参画に関する教育活動や研究活動に助成をはじめる予定です。関連するような教育活動や実践活動、研究活動を行っている方、またはそのような活動をはじめようと思っている方の積極的な応募をお待ちしています。

＊ 宇都宮大、筑波大にも保育所オープン!!

2006年11月1日に"宇都宮大学まなびの森保育園"が、12月1日に"筑波大学ゆりのき保育所"が開所しました。本部でも、保育所設置の検討が始まっています。

〒184-8501　東京都小金井市貫井北町4-1-1　東京学芸大学男女共同参画推進本部
●TEL/042-329-7108　●fax/042-329-7114　●E-mail/danjo@u-gakugei.ac.jp
●URL/http://www.u-gakugei.ac.jp/~danjo/
詳しい情報等はホームページでご覧ください.

OPGE
Office of Promoting Gender Equality at Tokyo Gakugei Univ.